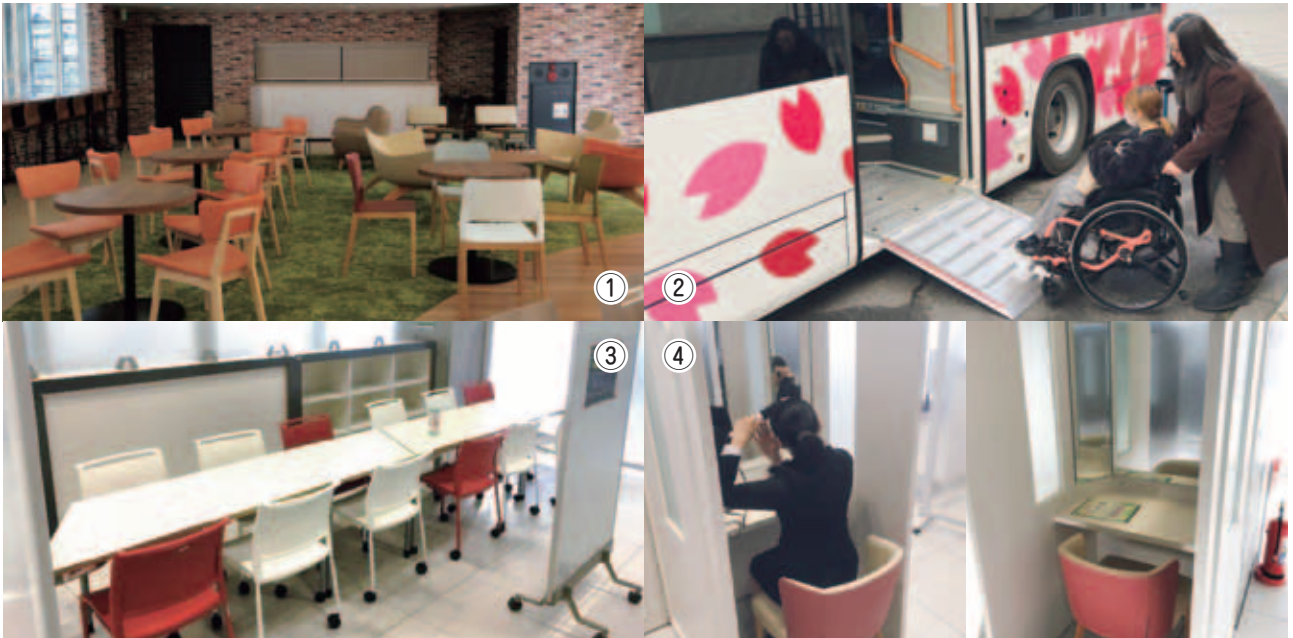


跡見学園女子大学 学報



2019年度も大学内外では、様々な出来事や変化がありました。

- ①【ラーニングcommons(新座C)】新座キャンパスに学生の憩いの場から、新しい多目的空間のラーニングcommonsがグリーンホール(学生食堂)2階に誕生しました。「学び×憩い」の新しい空間に生まれ変わっています。
- ②【車椅子仕様の大学バス】新座キャンパスの大学バスは、車いす仕様車が2台に増え、車いす学生の乗車の対応に活用されています。
- ③【インタラクティブスペース(文京C)】文京キャンパスでは、2号館2階の以前紙ファイル求人票が置かれていたスペースを活用して、相談コーナー、ミニセミナーを開催するインタラクティブスペースに生まれ変わりました。
- ④【パウダールーム(文京C)】インタラクティブスペースの一角には、パウダールームも新設され、リクルート姿の4年生がメイクブースで身だしなみを整える姿をよく見かけます。

その他、新座キャンパスのトイレに関しても、一部ウォッシュレット対応へ変更しました。今号では、2019年度後期の活動を中心にお伝えします。

記事内容

○学生支援室 1年を振り返って	2
○シンポジウム「東日本大震災と記憶の記録化」	
○令和元年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」について	3
○第52回 紫祭活動報告 ○学生会情報	4
○ゼミ紹介	5
○3年生対象「課題解決型プログラム」 ○「ATOMIインターンシップ」	
○社会人インタビュー(プレ・インターンシップ)	6
○就職懇談会 ○跡見花蹊・百人一首新収資料展	7
○2019年度 学内講演会開催報告	8
○2019年度 各種研究助成報告	9
○2019年度 夏期海外研修終了報告 ○海外からのご来校者について	10
○2019年度 心理教育相談所関連事業 ○ITC環境整備について ○CLUB NOW	11
○2020年度 花蹊記念資料館展示スケジュール ○新年度オリエンテーション予定	
○春の行事予定 ○履修申請 ○桜鑑賞のための構内一般開放とオープンキャンパスのご案内	
○編集後記	12

学生支援室 1年を振り返って

学生支援室(専門職員) 諸田 麻美

昨年4月に学生支援室が開設され、手探りで慌ただしく始まった障害学生の支援もようやく落ち着いてきました。日頃、先生方や職員の皆さんには、尋ねること、お願いすることばかりなのに優しく丁寧に対応していただき大変感謝しております。

さて、「学生支援室ってどんなことをしているの?」と思われる方がまだまだ多いと思いますので、学生支援室で行っていることについてご紹介したいと思います。

大学での修学や学生生活において特性や病気などにより支援が必要な学生(要支援学生)の皆さんに対し、学内の各部署や学生支援室に登録しているボランティア学生(学生ボランティア)と連携を取りながら支援をしています。学生支援室に登録している学生ボランティアは現在、文京キャンパスに3名、新座キャンパスに31名おり、移動支援だけでなく対面朗読やPC操作の支援などその時々必要に応じた支援活動を行っています。学生ボランティアの皆さんはこのような支援活動の他、自主的に昼食や空コマの時間に学生支援室に来室し、その時に一緒になった要支援学生と雑談をしたり、勉強やパソコンを教えあったりするなど友人のように接し交流を深めています。また、様々な支援を実践してもらうために講習会も開催しています。11月には実践編として文京区社会福祉協議会のイベントに参加する障害のある方のサポートボランティアとして3名が参加しました。今後の予定としては、ノートテイクの講習会を考えています。

ここからは実際に学生支援室を利用している視覚障害学生から学生支援室の様子について、コメントを頂いたのでご紹介します。

袴田 久実子さん

学生支援室では、専門職員の諸田さんに授業で困っている事や支援の在り方について相談したり、友達と勉強したりして過ごしています。また、私は混雑した学食で空いている席を見つけることが難しいので、昼食も学生支援室で取っています。お昼休みは他の要支援学生が来室し、様々な障害を持つ学生と学生ボランティアとの交流の場ともなっています。支援室には要支援学生なら誰でも利用可能なパソコンがあり、視覚障害のある私も利用できるよう読み上げ音声ソフトも搭載されるので課題をこなすこともできます。私にとって学生支援室はアットホームな感じでとても過ごしやすい場所となっています。

今後は、学生支援室主催の講習会などで障害当事者として様々な障害を持つ人への理解促進の活動をしていけたらと思っています。



さらに、要支援学生の支援の担い手として活躍中の学生ボランティアの皆さんから、ボランティアを始めたきっかけ、支援して感じたこと、今後取り組みたいことなどについてコメントを頂いたのでご紹介します。

遠藤 彩加さん

車いす学生が入学すると知り、新座キャンパスにはスロープがないところもあり、「車いすの人は一人で行動するのは難しい」、「困っているところがあれば何か助けになれるならサポートしてあげられたら」と思い、学生課に説明を聞きに行きました。そのあとすぐに支援室から連絡があり、車いす学生の移動サポートをすることになりました。ただ、初めてだったのでスピードもわからず転ばせないか、不快にさせてないかと思いつつ緊張しながら車いすを押していました。何度か心配して車いす学生の方に「大丈夫ですか?」と尋ね「大丈夫ですよ」と言ってもらえて安心した覚えがあります。実際に支援をしてみ感じたことは、もっと沢山サポートが必要だと思いましたが、障害があっても自立しているの自分のできる事が多く、大変だと思っていたサポートもほんの少し助けが必要なところをサポートすればよいのだと思うようになりました。



佐久間 莉音さん

サポートをしている中で気づいた学内の変化ですが、階段など広がって歩いていても自然にその時だけ道をあけてくれたりする学生がいるのは変わったことだと思います。

また、障害という言葉のイメージで判断し、敬遠してしまう人も残念ながら中には見受けられる気がします。「障害のある人」を受け入れるというのは人によっては難しく感じるかもしれませんが、その人と関わる中でその人の人柄を知ることによって受け入れられるようになることは皆もできると思います。

今後は、学生ボランティア活動を通じてその人がどういう人が理解してもらえよう活動をしていきたいと思っています。



田丸 紗弥加さん

視覚障害学生の教室間の移動支援をしています。支援と言っても一緒に歩いているだけで特別なことをしているわけではありません。しかし、今まで私の周りに視覚障害者がいなかったため最初は緊張しましたが、気負わず自然体でいることが大事なのだ気づいてからは楽しめるようになりました。また、支援をしている中で初めてのことに沢山触れることができ、自分の中の常識が広がったと感じています。そして、今まで私が想像していたよりもずっと健常者と障害者の壁が薄いことを学びました。これは支援活動をしていなければ一生気付くことはできなかったと思います。最後に、私は障害者の方を助けているとは思っていません。ただ困っている人の手助けをしているだけだと思っています。この考えは障害者の方に対してだけでなく健常者の方に対しても通じるものだと思います。



学生ボランティアのコメントにもあるように、要支援学生の皆さんは殆ど自立しているので、ほんの少しだけ手伝ってもらえるだけでとても助かります。ボランティアは難しいことではありません。『その時できることを、できる人がする』それだけです。この記事をご覧になって少しでも学内ボランティアに興味を持たれた学生の皆さん!是非一度学生支援室に来室してみてください。

最後に要支援学生が話していたことを紹介します。「学内に自分の状況を分かってくれている人がいるだけで安心するし、症状も和らいでいる。」

少しでも障害のある学生に理解を示していただければ幸いです。

シンポジウム「東日本大震災と記憶の記録化」を実施しました

地域交流センターでは、文京区の後援のもと、2019年12月21日に公開シンポジウム「東日本大震災と記憶の記録化—試みとしての地域史・写真展・記憶地図・街の復元—」を実施しました。

地域交流センターの組織拡充と合わせて、本年度より東日本大震災の被害を受けた地域の方々との交流を本格化させています。すでに本学で行なわれている特色ある地域交流活動に加え、今後、被災地との交流も、柱となっていくことが期待されています。

本シンポジウムが企画された理由は、「どのように被災地とかがわっていくのか」という「問い」を深めることにあります。私は被災地で調査・研究を進めてきました。残念ながら現場では、大学の地域交流活動への違和感が語られることが少なくありません。「大学の先生や学生たちが調査に来るのは良いが、自分たちにとって何の意味があるのかわからない」。あるいは、「被災した状況で手いっぱいになっているのに、自分の都合ばかりで無理を言うてくる人が少なくない」というものです。

そうした否定的な声があるなかで、被災地と協力関係を結びつつ、興味深い成果を生み出されている方々もいらっしゃいます。本シンポジウムでは、魅力的な成果を生み出されている4組5名の先生方にご登壇いただき、あらためて、「被災地との交流」を考えていきました。

第一報告では、西村慎太郎先生（歴史学）に帰還困難区域（福島県浪江町請戸）での地域史（おおあさ大学誌）を編む活動をお話しいただきました。第二報告では、吉田智彦先生（写真家）・鹿日久美先生（母ちゃんず）から、原発災害被災者の経験を伝える、写真展や語り部という営みを紹介いただきました。第三報告は植田今日子先生（社会学）に、津波により移転を強いられた集落（気仙沼市唐桑町宿浦）で行なわれた記憶地図作成の実践を報告頂き、第四報告の槻橋修先生（建築学）には、三陸沿岸の津波被災地の景観を模型で復元するプロジェクトをご報告いただきました。多様な背景をもつ先生方から、活動内容について丁寧なご報告がありました。来場者も研究者・一般の方・被災者・メディアの方など多様な背景を持つ方々にご来場くださり、議論は熱を帯びたものになりました。

また、会場となったプロッサムホール前では、ご登壇いただいた吉田智彦先生による写真展「心はいつも子どもたちといっしょー3.11からはじまった、ある母子キャンプの7年」が開催されました（期間2019年12月10日～24日）。約40点の写真が展示され、2号館はいつもと違った華やかな雰囲気になりました。

シンポジウム・写真展を通じて明らかになったのは、被災者にとっての「復興」を考えていくことの必要性でした。震災からすでに8年が経過し、9年目やがて10年目を迎えようとしています。たしかにインフラは復旧していきませんが、果たしてそれだけで、復興と言えるのでしょうか。本シンポジウムでは、地域史・写真展・記憶地図・街の復元というかたちで、震災によって失われてしまった、かけがえないモノやコトの存在を描き出しました。地域の記憶を掘り起こし、記録していくことが、被災地との地域交流のひとつの方法であることが示されました。いま私たちに何ができるかを問い続けながら、地域交流、そして地域での学びを推進していきたいと思えます。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします（地域交流センター・金子祥之）。



令和元年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」について

令和元年度の文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」本選会が、令和1年10月20日（日）（13時から16時）、跡見学園女子大学プロッサムホールで開催されました。

このコンテストは、文の京ゆかりの文化人顕彰事業のひとつで、文京区と連携をして朗読者に発表の場を提供するとともに、区民の文化活動の一層の促進、特に青少年部門においては朗読への関心を醸成することを目的として文京区が主催し、跡見学園女子大学が主管して平成24年度から開催されています。開会にあたり、成澤廣修文京区長よりご挨拶をいただきました。

今年のテーマは「ふしぎ空間を旅する」。文京区ゆかりの、六人の文学作品が課題です。

応募総数216人（一般129名、青少年87名）のうち、NHK放送研修センター日本語センターの第一次審査で選ばれた、青少年の部6人、一般の部10人が本選会に出場しました。

広瀬修子氏（元跡見学園女子大学教授、元NHKアナウンサー）、伊藤文樹氏（NHK放送研修センター日本語センター専門委員）、平間詩乃氏（文京区教育委員会 指導主事）の3氏の厳選なる審査の結果、最優秀賞2名（一般の部、青少年の部各1名）と優秀賞4名（一般の部2名、青少年の部各2名）が受賞されました。

今年は初めて本学学生が優秀賞に選ばれました。

例年同様、コンテストに合わせて本学図書館所蔵の関連図書の展示、紫音会アンサンブルによる演奏は来場者に好評を博しています。



第52回 紫祭活動報告

第52回 紫祭実行委員会 委員長 井戸川 紗矢香

11月2日、3日に第52回紫祭を行いました。今年度は「夢見草～満開の桜のように～」というテーマを掲げ、2日間限定、紫祭に咲く『満開の桜』をご覧になった皆様に、「きてよかった」と思っていただけのようにと願いを込め活動してまいりました。日頃の研究成果、サークルや部活動の発表や展示、模擬店など様々な出し物を通して、今回のテーマを表現しました。

2日目はやや天候が悪く心配でしたが、2日間とも無事学園祭を行うことができました。参加団体43団体中14団体がグラウンドに出店した模擬店では、焼きそばや餃子など様々な食品を販売し、ご来場頂いた方々が美味しそうに食べていらっしゃる姿を見ることができました。また、紫祭実行委員会が毎年出店しているピタパンも完売するほど大盛況でした。

今年は図書館内や構内での販売、展示に力を入れました。特に図書館で出店したかるた部の袴での競技姿には、目を引かれました。また、1号館の焼き物研究部では多くの方が作品を購入しておられました。そして、花蹊メモリアルホールでのダンス部A☆figによるパフォーマンスは、見るものを引き付ける力強いダンスで、日々の努力を感じさせられました。

2日目の体育館では、日中にタレントのトークショー、夕方の後夜祭では、2組の芸人によるお笑いライブを行いました。後夜祭は、本祭最後の締めにあつさわしい盛り上がりでした。

今年度の紫祭実行委員会はチャレンジの年となりました。パンフレットの表紙やポスターデザインを一般公募、グラウンドを華やかにするため色付きテントを使用、休憩スペースを設けることで多くの方にご利用いただくなど、工夫することができました。学生食堂では、テーマにある「夢見草」をモチーフにした紫祭限定食品も販売していただきました。

学長先生をはじめ教職員の皆様、一紫会の皆様、地域の皆様、参加団体の皆様、そして紫祭当日に新座キャンパスへお越しくださいました皆様のおかげで、今年度も紫祭を無事に終了することができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

来年は紫祭第53回です。今までの伝統も引き継ぎながら新しいことに挑戦し続け、跡見生一丸となり、より一層楽しい紫祭にいたします！

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



学生会情報

2019年度 学生会本部 副会長 赤羽 真美

ごきげんよう。春風ようやくぬるみ始めたこのごろ、皆様いかがお過ごしでしょうか。

学生会本部では、3回目となる学生会主催の「クリスマスパーティー」を12月20日に開催し、跡見生80名、交流のある学外生20名の計100名の方にご参加いただきました。ドレスコードを設けたことにより、普段とは違った雰囲気を楽しんでいただけました。ミニゲームやビンゴ大会では、グループ対抗としたため、初対面という方が多くいましたが、新しい交友関係を築き、楽しく行えました。お越しくくださった皆様、ありがとうございました。その他、洋食、和食テーブルマナー講習会にお越しくくださった皆様もありがとうございました。来年度のご参加もお待ちしております。

そしてこのクリスマスパーティーをもって、学生会本部の3年生の先輩方が引退となりました。寂しいという気持ちが大きいですが、先輩方が築き上げた学生会をしっかりと受け継ぎ、跡見学園女子大学をよりよくするために精進します。

3月18日には卒業式が行われ、先輩方を含め卒業生の方が明るい未来へ羽ばたかれます。社会でもご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

そして4月には新入生を迎えます。学生会本部の広報は新入生のために、新入生歓迎オリエンテーションを予定しています。跡見はどのような大学なのか、どのようなクラブ団体が活動しているのかを、所属団体と協力し、楽しく分かりやすく教えてくれます。

また、新入生歓迎オリエンテーションとは別に、学生会本部では新入生個別相談会も実施します。ここでは昼食はどうしているか、カバンはどのようなものを使っているかなどの簡単な質問から、履修登録などの学業に関する質問など幅広く対応し、新入生の不安を一緒に解決しますので、ぜひご利用ください。

私たち学生会本部は、跡見生が大学が楽しいと思えるよう精進して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



ゼミ紹介

加藤ゼミ

文学部 人文学科 准教授 加藤 大鶴

人間 (homo sapiens) は言葉を使って知恵 (sapiens) を作り出しているのですから、私たちを支えているのが言葉だと言えます。日本語ゼミではその「言葉」を観察し、研究しています。大切にしているのは「自分でデータを取ること」です。生の言葉に直に接してデータを蓄積し、それを元に思考することが、言葉の面白さに触れる一番の方法だからです。調査→整理→思考、という一連の行為が、生き抜く上で必要な「思考実践の基礎」を作ること、ゼミで身につくことの一つです。

3年生は研究の方法を学んでいます。2019年は伊達本古今和歌集の文字遣いとアクセント、アニメ・マンガ・ゲームに現われる演出方言としての「役割語」、受講生の各出身地の方言調査を扱いました。4年生は卒論につながる個別的なテーマを研究しました。大変さに音を上げる学生たちがだんだんと何かをつかんで表情を変えていく様子を好ましく思っています。学外では文学散策、ゼミ生同士の交流会を定期的に行うほか、2020年は方言調査合宿なども企画しています。



松井ゼミ(社会学)

観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 講師 松井 理恵

私たちのゼミでは、社会問題や社会現象への関心を深めるところから学びに入っていきます。なぜなら、それぞれの関心をきっかけとして、みずから生きる社会を考察するのが、社会学を学ぶ醍醐味だと考えるからです。グローバル化が進む今日、「身近なテーマを国際的な文脈で考えてみる」あるいは、「国際的なテーマを身近な現象に結びつけて考えてみる」といった往復を通じて、社会についての理解を深めることが重要となります。そのための一つの方法が海外でのフィールドワークです。2019年9月には韓国・大邱にて学外実習(2・3年生合同)をおこないました。街を歩き、地域コミュニティに根ざして活動する人びとの話を直接伺いました。また、嶺南大学校文学部日本語日本文化学科の授業に参加させていただきました。ちょうど日韓関係の悪化がメディアで盛んに報道されるなかでの渡韓となり、出発前には心配する声も上がりました。しかし、現地では多くの方々から歓迎を受け、自分の言葉で語る人びとの声を聞きました。実際に自分の目と耳で確かめることの大切さを学びました。



深町ゼミ(ファッションビジネス)

マネジメント学部 生活環境マネジメント学科 准教授 深町 浩祥

ファッションとは“流行”と訳されます。本ゼミでは、流行をビジネスとするファッションビジネスのために必要な美的感性と数的能力を身につけること、および、ゼミ生自ら課題を見だし調査・分析できるようになることを目標としています。

具体的には、2年生ではグループワークを通してファッションブランドの企画立案をシミュレーションします。ここで、美学・美術史、文化史、社会心理学、素材学、店舗設計、金融経済、簿記・会計、法律などブランドマネジメントに必要な基礎知識を学びます。3年生では国内外の企業訪問や展示商談会への参加などを通して、実際のビジネスの現場を体験します。これにより、商品企画やマーチャンダイジングなどについての現代的・実践的な知識と分析手法を身につけます。4年生は、各自の研究テーマに合わせて研究計画を作成し卒業研究・卒業論文に取り組みます。

このほか、デザイン表現力を身につけるためのクロッキー演習、法的思考力を身につけるための判例研究、そして、外国語によるプレゼンテーション演習なども行っています。



商品企画リサーチ/(公財)日本服飾文化振興財団(<https://jflf.or.jp/>)

板東ゼミ(コミュニティ心理学)

心理学部臨床心理学科 准教授 板東 充彦

本ゼミでは、“コミュニティ・モデル”の視点から周囲の対人関係を捉え、関わる技術を養います。“コミュニティ・モデル”とは、「支援する者-支援される者」の役割が明確な“医療モデル”に対置されるもので、「共に生きる者」という生活者の視点から対象者を捉えます。すなわち、面接室で発展してきた臨床心理学の技術を、日常生活における自分自身及び身近な他者の健康促進に生かすことを考えます。

3年次の前半に、講義とワークを通してソーシャルサポートやコミュニティ感覚等について学び、私たちが様々なコミュニティに支えられて生活していること、及び自分もすでに他者を支える役割を果たしていることを理解します。また、ゼミにおいてグループ体験の実践を行い、集団を捉えて関わるファシリテーションの技術を学びます。3年次の後半には、およそ4人一組の班に分かれ、各自の関心に沿ってコミュニティ心理学のテーマを設定し、グループ研究を行います。その成果をポスター発表会で公表し、4年次には卒業論文に取り組みます。

ゼミもまた、学生にとって身近なコミュニティの一つです。本ゼミでの体験と学びを通して、自身と身近な人々の健康促進に貢献できる社会人に成長することを願っています。

就職課 Information ～就職部 就職課～

3年生対象「課題解決型プログラム(PBL)」を2社の協力で開催しました

2019年夏、就職部就職課では東京都大田区にある専門商社「明治商工株式会社」、埼玉県新座市の建設会社「増木工業株式会社」とタイアップし、1カ月集中型の「課題解決型プログラム(PBL:Project Based Learning)」を実施しました。

まず、明治商工(株)では、「新しい事業部を考える」という難易度の高い実務的なテーマに5名の学生が挑みました。企業からの要望をしっかりと理解し、社会が要求しているトレンドに鑑み各自が議論を重ね、「農業にかかわるビジネス展開」、「災害支援」、そして「建設業における総合コンサルティング」と、今の時代に対応した結論に至りました。この結論は、実際に同社における幹部会議において議論された内容にも匹敵する提案となりました。難易度の高いテーマに対して、限られた時間の中でしっかりと結論まで導いたことは、学生のポテンシャルを高めたことでしょう。

そして、増木工業(株)では、昨今の働き方改革における「効率の良い働き方」の検討に併せて、「建設事業部独自の課題」を含めた2つのテーマについて、10名の学生が3チームに分かれ競いました。特に今回は、代表取締役社長 増田敏政氏を始めとして同社の全面協力が得られ、会社訪問時や中間報告、最終プレゼンテーション時には経営者としての貴重なお話をいただき、物件の紹介や企業情報のご開示をいただくなど、参加学生にとっては大変有意義な機会となりました。3チームの中で優秀チームとなったチーム名「target」は、業務のイレギュラーをレギュラー化するための取り組みを提案し、実現可能性のある内容が評価されました。11月12日に本学で開催された「就職懇談会」では、学生発表の一環として「target」の学生が舞台上に立ち、堂々としたパフォーマンスを発揮できたことは、学生にとっても大きな自信となったことでしょう。

今後も就職部就職課として、「課題解決型プログラム」を積極的に取り入れるべく、タイアップ企業も年々増やしていきます。そして、多くの学生が「一歩踏み出す力」、「主体的に動ける力」を身につけ、目まぐるしいスピードで動き続ける社会において、しっかりと地に足をつけてキャリアを積んでいけるよう、様々な観点から学生支援の充実化を図ってまいります。



明治商工(株)最終プレゼン後



増木工業(株)増田社長の講話

本年度も「ATOMIインターンシップ」が夏季休業中に実施されました!

就職課主催の「ATOMIインターンシップ」は就業体験を通して、学生が自己の責任において納得のできる就職をするための職業観を養い、「働き方を含めた今後の生き方」を考えることを目的として毎年実施しています。本年度は、企業・自治体・団体等52カ所のご協力のもと、のべ113名の学生が参加しました。

ここ数年、就職活動の早期化や通年化が進む中で、早い段階から自分の将来を考え、できるだけ多くの仕事について調べておきたい、経験して適性を試してみたいという積極的な学生が増え、1・2年生の参加者が増加しています。このような状況をふまえ、本年度からは事前研修や事後研修を文京キャンパスのみならず、新座キャンパスでも実施し、報告会は両キャンパスを中継して実施しました。

参加した学生の満足度は高く、「視野が広がり、様々な可能性を模索するようになった」「今の自分に足りないものを明確にすることができ、今後の大学生活や学習への意欲が高まった」など、前向きな感想が聞かれました。



(株)内田洋行でのインターンシップの様子

初開催! 社会人インタビュー (プレ・インターンシップ)

本プログラムは埼玉県から「大学生のための県内企業魅力発見事業」の補助金をいただき、埼玉県内企業15社と「株式会社ベネッセi-キャリア」、そして本学就職課の連携により、2019年の夏に初めて実現しました。

1・2年生15名の学生が参加し、全4回の集合型研修のほか、学生各自が1社ずつ埼玉県内の企業へ訪問インタビューを担当するというプログラム。学内でのマナー研修を行い、訪問企業へアポイントを取り、インタビューに臨みました。学生は県内企業の魅力を発見するとともに、社会人が生き生きと仕事をしている姿を見て、働くことへのイメージが大きく変わったようです。プログラムの最後には報告会を実施して情報を共有することで、訪問していない企業も知ることができました。今後は正課の授業にも導入し、多くの学生に成長の機会が提供されるよう推進してまいります。



埼玉県内企業への訪問インタビュー

就職懇談会が盛大に開催！ ～学生は参加企業と積極的に交流～

11月12日（火）の午後、2019年度就職懇談会が開催されました。73社78名の企業のご担当者様と3年生76名および学園関係者が参加し、盛大に実施されました。

この就職懇談会は、学生の就職活動およびインターンシップ等で協力・指導をいただいている企業様に対して、本学への更なる理解を深めていただくと共にご意見を伺い、今後の就職支援に活かすことを目的として、また学生の企業研究の一環として、例年実施しているものです。

第一部は文京キャンパス プロッサムホールにて、笠原学長の挨拶の後、曾田副学長より本学の現況、村上就職部長より本学の就職支援に関する説明がありました。参加企業のご担当者様からは本学のキャリア支援の取り組み、特に1年次からのサポートについて高い評価をいただきました。

引き続き学生の2団体より活動報告がありました。最初に、就職課主催の課題解決型プログラム（PBL）において、埼玉県新座市の建設業「増木工業株式会社」の課題解決に取り組んだ文学部の学生がプレゼンテーションを行い、続いて「大学生観光まちづくりコンテスト2019」（同コンテスト運営協議会主催、観光庁他後援）にて優秀賞・訪日インバウンドビジネス賞を受賞した観光デザイン学科の学生が受賞ブランのプレゼンテーションを行いました。2団体とも質の高いプレゼンテーションで高い評価を受けました。

第二部は「嘉ノ雅 茗溪館」に場所を移し、学園関係者と企業のご担当者様が同じテーブルにつき、情報交換を行いました。

その後、学生も参加し、交流が行われました。学生は事前に調べた企業情報に基づいて積極的に質問をするなど、貴重な機会を有効に活用しようとする姿が見受けられました。参加した学生からは「注目していなかった企業の情報が得られた」「各企業の求める人物像を知ることができた」などの意見がありました。企業のご担当者様からは本学の学生はいきいきとしてとても気持ちがいいという感想をいただきました。

今後も就職部就職課では、企業様との積極的な交流や連携を通じて、より密接な関係を築き、学生のキャリア支援に注力するよう努力してまいります。



学生によるプレゼンテーション



学生と企業ご担当者との交流の様子

跡見花蹊・百人一首新収資料展

図書館長 矢島 新

図書館では本学創始者跡見花蹊関係資料と貴重コレクション百人一首を収集しており、新たにコレクションに加わった資料の展示を年2回、春と秋に新座図書館展示室で開催しています。10月30日から開催した「第17回跡見花蹊・百人一首新収資料展」では、今年度春学期に購入した跡見花蹊関係資料および百人一首関係資料を展示しました。

跡見花蹊は教育者としてだけでなく書画に秀でていたことでも知られています。今回は、掛軸『松林山水幅』と『絵短冊』7枚を展示しました。落ち着いた色彩の松林山水幅に対し、色鮮やかな短冊は、団扇を持った美人、梅、滝などが描かれており、1枚1枚の短冊の絵柄と色合いの対比を見て楽しむことができました。

その他の花蹊作品では姉小路良子氏にあてた書簡、また、花蹊の従妹である跡見玉枝作品から『月下桜花図』、『富嶽図幅』、短冊『亥図』を、宮崎玉緒作品から『紅桜吉野山桜 菊桜 合図』を展示しました。宮崎玉緒（幕末-明治時代の医師、国学者）は玉枝の師で、両者はともに桜花図を得意としていました。今回の展示では、花蹊作品と併せて、花蹊を取り巻く人々の作品を紹介し、ご覧いただく良い機会となったようです。

また、本学の貴重コレクションである百人一首からは、江戸後期の『百人一首かるた』と『百人一首講譯』を展

示しました。『百人一首講譯』は「講譯（訳）」という書名が示す通り、百人一首の注釈書・研究書の一種です。百人一首の資料として、「講譯（訳）」と「講釋（釈）」とは、ほぼ同義として用いられていると考えられます。後者の『百人一首講釋（釈）』という書名の資料は図書館に複数所蔵されていますが、前者の『百人一首講譯（訳）』は『百人一首講譯入 撰要百人源氏文章全』のみでしたので、『百人一首』注釈書・研究書の研究に非常に有益なものと言えます。

学園祭期間に合わせた開催であったため、学生、教職員に加え、学園祭に来場した卒業生、一般の方々が多くおみえになりました。鑑賞する資料、研究に役立つ資料の両方をご覧いただき、親しんでいただけたようでした。





2019年度 学内講演会 開催報告



全学共通科目運営センター

- 2019年度全学共通科目運営センター主催FD研修会

日時：2019年10月23日(水) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス 図書館視聴覚ホール
テーマ：「プロゼミを考える」
プログラム：1.学長挨拶：笠原清志学長
2.話題提供：(司会)河村英和観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授

 - ①：加藤大鶴文学部人文学科准教授
 - ②：丸岡吉人マネジメント学部マネジメント学科教授
 - ③：塩月亮子観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授
 - ④：松崎くみ子心理学部臨床心理学科教授

3.全体議論・質疑応答
：(司会)板東充彦心理学部臨床心理学科准教授
話題提供①～④を頂いた先生

参加者数：教員89名 計89名

文学部

- 文学部FDワークショップ

日時：2019年6月19日(水) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス 2282教室
テーマ：跡見ブランディングに向けた教育のあり方
発表者：水谷長志教授(人文学科)
「大学ブランディング力と学部学生の調査研究力の向上は両立するだろうか?」ー花溪コンテンツの「見える」化の可能性をめぐって」渡邊大輔講師(現代文化表現学科)
「ゼミ活動を通じた跡見ブランディングーゼミ誌発行と企業インターンシップを事例にー」マックカレン准教授(コミュニケーション文化学科)
「コミ文の跡見ブランディング教育」加藤大鶴准教授(人文学科)
「古典籍影印本を使った授業の一報告ー跡見ブランディングへの接続可能性を検討するー」

参加者数：教職員20名

大学院人文科学研究科

- 日本文化研究フォーラム(※)
- ◆第4回(※通算)◆

日時：2019年11月28日(木) 16:30～18:00
場所：文京キャンパス M2703教室
テーマ：「新聞挿画と明治生活文化史研究」
講師：佐々木隆氏(聖心女子大学名誉教授)

参加者数：22名

マネジメント学部

- マネジメント学部主催 第1回FDワークショップ

日時：2019年6月5日(水) 17:00～18:00
場所：新座キャンパス 2号館会議室
テーマ：セクハラ防止に向けて
発表者：宮崎正浩教授(マネジメント学部長)(ゼミ活動での留意点など)
討議：禿あや美教授、高橋聖子准教授、横井由利准教授、中西哲准教授、曾田修司教授

参加者数：20名
- マネジメント学部主催 第2回FDワークショップ

日時：2019年11月20日(水) 14:40～16:10
場所：新座キャンパス 3156教室
テーマ：シラバス執筆上の注意、ゼミ授業運営上の工夫
発表者：中西哲准教授(マネジメント学科)(シラバス執筆上の注意)
禿あや美教授(マネジメント学科)(ゼミ運営上の工夫)
山田秀樹教授(マネジメント学科)(ゼミ運営上の工夫)

参加者数：15名
- マネジメント学部主催 キャリアデザイン講演会

日時：①令和元年11月5日(火) 16:30～18:10
②令和元年11月8日(金) 16:30～18:10
場所：①②新座キャンパス 花溪メモリアルホール
テーマ：①②「輝く未来へ『幸せキャリア』の創り方」
講師：①②森本千賀子さん 株式会社morich
代表取締役兼オールラウンダーエージェント

参加者数：①105名 ②159名

心理学部

- 心理学部主催 令和元年度 第1回FDワークショップ

日時：2020年2月12日(水) 13:40～15:10
場所：新座キャンパス 2280教室
演題：公認心理師資格試験をふまえた授業内容の工夫
講師：新井雅准教授(臨床心理学科) 板東充彦准教授(臨床心理学科)
酒井佳久教授(臨床心理学科)

その他講演会

- <全学自己点検・評価委員会主催>
- 自己点検・評価学内研修会

日時：2019年7月17日(水) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス 図書館視聴覚ホール
内容：①第3期認証評価の概要と大学基準について
②内部質保証システムについて
講師：大学基準協会 評価研究部部长 田代 守氏

参加者数：計69名(教員53名、職員16名)

<全学教育・研究支援委員会主催>

- 全学教育・研究支援委員会主催FDシンポジウム

日時：令和元年11月20日(水) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス 図書館2階視聴覚ホール
テーマ：まなざしのデザイン<世界の見方>を変える方法
講師：花村周寛氏(ハナムラチカヒロ)

参加者数：50名

●全学教育・研究支援委員会主催FD研修(協力：就職部)

- 全学教育・研究支援委員会主催FD研修(協力：就職部)

日時：令和元年12月18日(水) 15:20～16:55
場所：新座キャンパス 図書館LALA 3
テーマ：埼玉県補助事業「大学生のための県内企業魅力発見事業」
講師：荒木裕一朗氏(株式会社ベネッセインターキャリア)

参加者数：10名

<地域交流センター主催>

- 地域交流センター主催 FD講習会

日時：2020年1月29日(水) 15:00～16:30
場所：新座キャンパス 図書館視聴覚ホール
演題：効果的な地域交流活動実施のポイントの理解へ向けて
講師：土居洋平准教授(コミュニティデザイン学科)
横田恭三教授(人文学科) 許伸江准教授(マネジメント学科)
老川慶喜教授(観光デザイン学科) 宮岡佳子教授(臨床心理学科)

参加者数：43名

<学生サポートセンター主催>

- 2019年度教職員のためのカウンセリング研修会

日時：2019年7月10日(水) 10:40～12:10
場所：新座キャンパス図書館視聴覚ホール 文京キャンパスM2308(中継)
演題：発達障害学生の理解と支援
講師：小栗真弘准教授(心理学部)

参加者数：68名

<セクシュアルハラスメント防止対策委員会主催>

- 特別講演会

日時：2019年6月29日(土) 13:30～14:30
場所：文京キャンパス M2304
演題：セクシュアル・ハラスメントの「新」常識
ー教育現場での問題点と防止策ー
講師：牟田和恵教授(大阪大学人間科学研究科教授)

参加者数：63名

<セクシュアルハラスメント防止対策委員会主催>

- 講演会

日時：2019年11月6日(水) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス図書館視聴覚ホール 文京キャンパスM2308(中継)
テーマ：「立教大学における人権・ハラスメント対応の取り組み」
講師：山内浩美先生(立教大学人権・ハラスメント対策センター専門相談員)

参加者数：136名

<情報メディアセンター主催>

- 職員対象「Office365講習会」

日時：2019年7月4日(木) 13:00～14:30
場所：新座キャンパス 3254PC教室(文京キャンパスM2307PC教室と中継)
テーマ：office365の使い方、Teamsの使い方 他
講師：株式会社 内田洋行

参加者数：34名(新座22名、文京12名)

2019年度

各種研究助成報告

2019年度 外国出張助成

所属	氏名	職位	目的	出張先	出張期間
文学部	峰松 和子	准教授	学会・研究	アメリカ(ハワイ)	2020.3.6~3.16(11日間)
文学部	安本 真弓	准教授	研究	中国	2019.8.15~8.29(15日間)
文学部	横田 恭三	教授	学会	中国	2019.8.21~8.26(6日間)
観光コミュニティ学部	河村 英和	准教授	学会・研究	イタリア	2019.9.10~9.23(14日間)
観光コミュニティ学部	松井 理恵	講師	学会	韓国	2019.10.25~10.28(4日間)

2019年度 特別研究助成費

単位：円

所属	氏名	職位	研究課題	採択額
文学部	笹島 雅彦	教授	米中対立関係の長期化と深化	914,000
文学部	加藤 大鶴	准教授	東京式アクセントにおける漢語アクセントの基礎データ構築	485,000
文学部	水谷 長志	教授	MLA連携論を素地とする調査研究メソッドの可能性の検証と開発及び跡見花蔭史資料のMLA連携横断のための試行的システムに向けた予備的調査	695,000
文学部	要 真理子	准教授	W・ルイス研究——ナショナリズムからグローバリズムへ	576,000
マネジメント学部	山澤 成康	教授	女性企業家養成の再教育システム構築に関する研究	892,000
マネジメント学部	鷹 咲子	教授	就学援助制度の改善と義務教育の完全無償化—被災就学援助と給食無償化から考える	934,000
観光コミュニティ学部	鍵屋 一	教授	災害時の福祉支援活動の全体像と支援方策の研究	810,000
心理学部	板東 充彦	准教授	サポート・グループ運営者の機能に関する一考察—“当事者性”をめぐる—	573,000

2019年度 学術図書出版助成

単位：円

所属	氏名	職位	出版物タイトル	助成費
文学部	岩田 秀行	名誉教授	江戸文芸攷 —黄表紙・浮世絵・江戸俳諧—	1,000,000
文学部	森 まり子	教授	イスラエル政治研究序説 ——建国期の閣議議事録 一九四八年——	1,000,000
観光コミュニティ学部	老川 慶喜	教授	満州国の自動車産業 —同和自動車工業の経営史—	1,000,000

2019年度 海外・国内留学助成

種別	所属	氏名	職位	留学する大学等	留学期間
国内長期	文学部	香山 はるの	教授	早稲田大学文学学術院	2019/4/1~2020/3/31

2019年度 科学研究費助成事業

単位：円

所属	氏名	職位	研究種目	研究課題名	2019直接経費
文学部	石田 信一	教授	基盤研究(B)	バルカン諸国の歴史教育から見た紛争と和解の研究	3,000,000
文学部	安本 真弓	准教授	基盤研究(C)	現代中国語における可能表現の学習効果—導入及び習得データに基づく実証分析	1,100,000
文学部	加藤 大鶴	准教授	基盤研究(C)	資料横断的な漢字音・漢語音データベース構築・公開に向けた基礎的研究	1,100,000
文学部	要 真理子	准教授	基盤研究(C)	ウィングダム・ルイスのメディア論——アートとイデオロギーの交錯	1,800,000
マネジメント学部	山澤 成康	教授	基盤研究(C)	統計改革を反映したGDP予測—ビッグデータを利用したナウキャスト	800,000
マネジメント学部	郷 香野子	講師	若手研究	事例ベース意思決定理論(CBDT)のマーケティングへの適用	1,300,000
観光コミュニティ学部	霧 理恵子	教授	基盤研究(C)	「小農の復権」に関する社会学的研究	700,000
観光コミュニティ学部	河村 英和	准教授	基盤研究(C)	19世紀スイス・シャレー建築の理想イメージの変遷と国内外受容文化史の構築	900,000
心理学部	酒井 佳永	教授	基盤研究(C)	軽躁チェックリスト他者評価版を用いた効果的な双極性障害のスクリーニング法の開発	700,000
心理学部	新井 雅	准教授	若手研究(B)	心理専門職による研究知見の効果的生成・臨床的活用・社会的発信に関する研究	研究期間延長
心理学部	小栗 貴弘	准教授	若手研究(B)	高校中途退学を予防する包括的プログラムの開発	研究期間延長
心理学部	前場 康介	講師	若手研究	大学生の進路選択セルフ・エフィカシー情報源尺度の作成と新たな介入プログラムの開発	600,000

国際交流活動の紹介

2019年度夏期海外研修終了報告

2019年度夏期海外研修が実施されました。イギリス（参加者：13名、期間：8月4日～9月3日）、アメリカ（参加者4名、期間：8月18日～9月5日）、フランス（参加者：11名、期間：8月4日～9月3日）、台湾（参加者：20名、期間：8月4日～8月24日）のいずれの研修も、参加した学生全員が有意義な時間を過ごし、無事に帰国しました。



スターリング大学（イギリス）での研修を終えて

マネジメント学部マネジメント学科 1年 木村悠希

スコットランドでの生活はすべてが日本と全く違い、それぞれの国の良さを学ぶことができました。授業は日本よりも少しハードでしたが、積極性が求められ、やりがいもありました。それぞれのクラスの学生が、自分の先生をリスペクトしていたことが印象的です。

1か月という時間は本当にあっという間で、最後の授業や、寮を出るときには寂しさのあまり泣いてしまうほどでした。色々なことを学び、間違いなく成長できた1か月です。



ローワーコロンビアカレッジ（アメリカ）研修を終えて

文学部コミュニケーション文化学科 2年 鈴木彩加

高校2年生の頃にイギリスに短期留学をした経験があったため、アメリカでの留学を考えていた際に見つけた「英語でボランティア活動をする」というポスターの言葉に惹かれて、この研修に応募しました。大学での授業だけでなく、老人ホームの訪問やスクールガーデンのお手伝いなどの活動を行うことで、現地の方々ともお話す機会が多くあり、語学力だけでなく、コミュニケーション能力も向上したように感じます。今後の実生活で、この研修で得たことを活かしていきたいです。



西部カトリック大学（フランス）での研修を終えて

心理学部臨床心理学科 2年 佐藤百香

空港に着きバスに揺られてアンジェに着いた時、なんてのどかなところなのだろう、と思いました。また、寮やCIDEFで生活していくうちに、優しい人たちがたくさんいる街だと気づきました。

アンジェでの生活はとても楽しく、難しいフランス語の授業も苦ではありませんでした。授業が午前で終わる日などは午後から街に行き、沢山のお店に入りお土産を選んだりしました。また、寮の近くのアンジェ城のライトアップに行くなど、とても充実した27日間を送りました。



国立政治大学（台湾）での研修を終えて

文学部コミュニケーション文化学科 2年 和田友莉恵

私は大学の夏期海外研修を利用して3週間台湾に行きました。中国語は大学から学び始めて一年くらい経った頃だったのですが、実際に公用語が中国語である国に訪れるとなると緊張と不安でいっぱいでした。いざ訪れてみると台湾の方々は優しく、研修先の先生や学生の方々とは分からない中国語があれば丁寧に教えてくれました。この研修を通して、中国語だけでなく、台湾の文化や暮らしも学ぶことができました。



海外からのご来校者について

アメリカ・ワシントン州 ロングビュー市民団

2019年10月29日（火）、アメリカ・ワシントン州ロングビュー市民団の皆さんが本学文京キャンパスへ来校され、跡見学園高校、女子大学の施設見学、また、女子大学の英語の授業に参加しました。

ロングビュー市は、本学の海外研修先の一つである、ローワーコロンビアカレッジ（LCC）のある市であり同市は埼玉県和光市の姉妹都市です。毎年交互に市民団の派遣を行っています。今回はロングビュー市民団が来日され、その中には毎回LCCで英語の授業を担当していただいている、Ms. Frances Hearnもいらっしゃいました。

本学とロングビュー市、ローワーコロンビアカレッジの協力関係を今後も継続、強化して参ります。



ローワーコロンビアカレッジ 学長、担当スタッフ

2019年11月14日（木）、アメリカ・ローワーコロンビアカレッジの学長（Dr. Chris Bailey）と、短期研修コーディネーター（Ms. Keiko Pedersen）が本学文京キャンパスへ来校されました。お二人は本学学長、国際交流課と共に今後の研修についての話し合いを行い、その後、歴代の研修参加学生との交流会へ参加されました。

本学は同校での海外研修を2015年2月より実施しています。本研修は、英語のクラスに加えて、ホームステイ体験、ボランティア、公共施設見学を通し、アメリカの地域コミュニティを学ぶ点が特徴です。2019年度より夏期研修も始まり、本学とローワーコロンビアカレッジの交流は益々盛り上がりを見せています。



スターリング大学スタッフ

2019年9月18日（水）、イギリス・スターリング大学の短期研修担当職員（Ms. Ciara McNally）が本学文京キャンパスへ来校され、本学国際交流課と、スターリング大学での短期研修（夏・春）についての意見交換を行いました。

本学ではスターリング大学の研修を2009年度より開始し、加えて、2015年度より本学高校生の派遣も開始しました。同大学は英語を母国語としない留学生の教育に定評があります。これまでに、数名の本学卒業生がスターリング大学大学院に進学し、高校生も短期研修をきっかけとし、スターリング大学へ進学しました。今後は、本学学生を同大学へ中長期（半年～1年間）留学生として送り出す取り組みにも力をいれて参ります。



2019年度心理教育相談所関連事業

① 一般向け講習会

【新座キャンパス】

- 8/3(土) 「元気の素を活用する」 講師:松崎くみ子
 9/5(木) 「発達障がい児のこころ」 講師:小栗貴弘
 9/7(土) 「不登校・ひきこもりの理解と関わり方」 講師:野島一彦
 9/14(土) 「大人の発達障害の理解と対応」 講師:宮岡佳子
 9/28(土) 「上手にストレスマネジメント」 講師:酒井佳永

【ATOMIさくらルーム】

- 1/23(木) 「上手にストレスマネジメント」 講師:酒井佳永
 1/25(土) 「不登校・ひきこもりの理解と関わり方」 講師:野島一彦
 1/30(木) 「元気の素を活用する」 講師:松崎くみ子
 2/1(土) 「大人の発達障害の理解と対応」 講師:宮岡佳子
 2/15(土) 「発達障がい児のこころ」 講師:小栗貴弘

② 不登校を考える親の会

- 新座キャンパス=第1・第3木曜日 10:00～12:00
 文京分室ATOMIさくらルーム=第2・第4木曜日
 13:00～15:00
 担当:野島一彦

ICT環境整備について

情報メディアセンター

2019年8月から9月にかけて、ICT環境の整備を行いました。

まず、学内Wi-Fiのアクセスポイントを増設しました。文京キャンパスにおいては、2号館4階以上の教室や廊下に新設し、現在、2号館全フロアでWi-Fi接続が可能となりました。新座キャンパスは、グリーンホールと3号館大教室(3教室)、心理教育相談所演習室に設置しました。多くの学生が利用するグリーンホール1階学生食堂は、常時350～400の端末を接続できるよう機器を上位機種に変更し、数も2基から3基に増やしました。同様に、5月にリニューアルした2階ラウンジも上位機種に変更し、1基から2基に増やしました。

今回、文京キャンパスにおいては、PC教室、一般教室、インタラクティブスペース等に設置しているパソコン全台を新しくしました。特にパソコン教室においては、老朽化によりパソコンの起動や処理速度が遅く、授業運営や自主学修にご迷惑をおかけしておりましたが、今回のリプレイスでこれらが大幅に改善されました。新座キャンパスにおいては、1号館の7教室(1111、1204、1212、1213、1214、1215、1312)のプロジェクトやAV機器を新しくしております。

また、後援会からご支援いただき、学生が自由に利用できるプロジェクトと小型のホワイトボードを購入し、文京キャンパス2号館3階、新座キャンパスグリーンホール2階ラウンジに設置しました。自分のスマートフォンから直接データを投影できるので、パソコンを持っていなくても利用できます。発表の練習や友人との自主学修、クラブ活動等で大いに活用してください。

来年度もICT環境の整備に努めたいと思います。



③ ふれあいカフェ

7/6(土)、1回開催 担当:宮岡佳子
 高齢者の方と学生との交流会で、今回で15回目になります。2017年より学生寮で行っています。臨床心理学科の学生と寮生さんとなぞなぞや合唱の企画をし、お茶とお菓子でおもてなしました。高齢者の方はとても明るく、はじめはぎこちなかった学生も、おしゃべりで盛り上がっていました。高齢者の方に、戦争体験のお話もしていただきました。そのお話は心に染みこむものでした。参加者は、目白台交流館で活動している高齢者クラブの方28名、学生11名、教職員と寮長さん3名の総勢42名でした。SNS世代の若い人は、対面で直に人と話す機会が減っています。このカフェで人と接するスキルを身に付け、自信につながればと思います。



④ ATOMIさくらルーム おしゃべりたいむ

毎月2～3回 13:15～14:00開催(担当者1名)
 担当:松崎くみ子、酒井佳永、宮岡佳子
 妊婦及び乳幼児の母親を対象に、平成28年6月より八千代助産院おとわバースにて「おしゃべりたいむ」を開催しています。日頃感じていることや、困っていることなど、自由に話し合うことを通して、こころの健康支援を目指しています。

⑤ OB・OGカンファレンス

毎月2回 木曜日(文京キャンパス) 18:40～20:40
 土曜日(さくらルーム) 14:30～16:30
 担当:野島一彦
 本学大学院修了の臨床心理士の資質の維持・向上のために担当ケースの検討を行っています。

CLUB Now

演劇部〈劇団Ash〉

部長 小林 万利奈

ごきげんよう! 跡見学園女子大学演劇部〈劇団Ash〉です。私達は年2回以上の公演に向けて劇の練習を中心に、新座キャンパスにて活動しています。主な活動日は月曜の4限後～20時と火曜・金曜の5限後～20時の週3日と、夏季休業などの長期休みには合宿なども行います。

劇の公演は、4月の新入生歓迎公演と11月の紫祭公演の他にも、部員の希望があれば部内発表会やクリスマス公演、引退公演等も行います。

2019年の紫祭公演では、役者の半分は演劇未経験でしたが、経験の有無に関わらず、個々の実力を発揮した劇作りを心掛けて日々練習に励んだ結果、紫祭の模擬店コンテストパフォーマンス部門で第2位を頂きました。

少しでも演劇に興味がある方はぜひ新座キャンパスの1204教室、または部室棟の演劇部の部室へ足を運んでください! 役者希望の方はもちろん、大道具や音響、照明などの裏方に興味がある方も大歓迎です。

Twitterやインスタグラム等のSNSでは、活動の様子や公演案内について投稿しておりますのでそちらもご覧ください。

部員一同お待ちしております!



2020年度 花蹊記念資料館展示スケジュール

期 間	展覧会名・展示室 1	展覧会名・展示室 2
2020		
3月 12日(木)～ 5月 30日(土)	「跡見花蹊とその遺産展 I」	
6月 22日(月)～ 8月 1日(土)	「近現代絵画収蔵品展」	「第14回 跡見OG書道展」
9月 25日(金)～ 12月 5日(土)	「跡見花蹊とその遺産展 II」	
2021		
1月 26日(火)～ 2月 6日(土)	博物館実習生模擬展示	
3月 9日(火)～ 3月 31日(水)	「跡見花蹊の系脈展 ー独創と継承ー」	

※展示期間、展示内容は変更することがあります。

新年度オリエンテーション予定

●学部 新1年生対象

4月2日(木)	学生寮オリエンテーション (入寮者のみ対象)
3日(金)	入学式・新入生説明会 (午前:文学部・心理学部、午後:マネジメント学部・観光コミュニティ学部) ＜マネジメント学部＞ グループミーティング ＜観光コミュニティ学部＞ 学部・学科ガイダンス・グループミーティング
4日(土)	＜マネジメント学部・観光コミュニティ学部＞ 健康診断 ＜文学部・心理学部＞ 進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・学科ガイダンス・グループミーティング・資格課程ガイダンス (文学部のみ)
6日(月)	＜文学部・心理学部＞ 健康診断・資格課程ガイダンス・個別面談 ＜マネジメント学部・観光コミュニティ学部＞ 進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・グループミーティング・個別面談・資格課程ガイダンス・社会調査士課程ガイダンス (観光コミュニティ学部のみ)

●学部 新2年生対象

4月4日(土)	＜文学部・心理学部＞ 進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・学科ガイダンス・グループミーティング・個別面談・健康診断
6日(月)	＜マネジメント学部・観光コミュニティ学部＞ 進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・グループミーティング・個別面談・健康診断・学科ガイダンス (観光コミュニティ学部のみ)

●学部 新3年生対象

3月30日(月)	＜文学部・心理学部＞ 健康診断・進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・学科ガイダンス・グループミーティング・個別面談
31日(火)	＜マネジメント学部・観光コミュニティ学部＞ 健康診断・進路ガイダンス・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・グループミーティング・個別面談 ＜観光コミュニティ学部のみ＞ 社会調査士課程ガイダンス・学科ガイダンス

●学部 新4年生対象

3月30日(月)	＜文学部＞ キャリアセミナー・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・学科ガイダンス・グループミーティング・個別面談・健康診断
31日(火)	＜マネジメント学部・観光コミュニティ学部＞ キャリアセミナー・学生生活ガイダンス・履修ガイダンス・グループミーティング・個別面談・健康診断

●大学院生対象

3月31日(火)	＜マネジメント研究科のみ (文京キャンパス)＞ 健康診断・履修ガイダンス (2年生)・専攻ガイダンス (2年生)
4月3日(金)	＜両研究科新1年生のみ (新座キャンパス)＞ 入学式・専攻説明会他 (午前:人文科学研究科、午後:マネジメント研究科)
4日(土)	＜人文科学研究科のみ (新座キャンパス)＞ 健康診断・履修ガイダンス (2年生)・専攻ガイダンス (2年生)

◆春の行事予定◆

3月	18日(水)	第52回学部卒業式・第14回大学院修了式
	19日(木)	謝恩会
4月	3日(金)	第56回入学式
	7日(火)	春学期通常授業開始

●履修申請●

●Web履修登録申請期間

- 1次 <2・3年生> 4月7日(火)、8日(水)
<1・4年生> 4月9日(木)、10日(金)
2次 <全学年> 4月14日(火)、15日(水)

●履修登録状況(抽選結果)発表

4月14日(火)、18日(土)

●履修登録訂正手続期間

4月18日(土)、20日(月)

桜鑑賞のための構内一般開放
オープンキャンパスのご案内(予定)

3月2日(月)～
5月15日(金)
新座キャンパス

3月28日(土)
新座キャンパス

桜鑑賞のための
構内一般開放

開放時間
9:00～16:00
(予定)

予約
不要

オープンキャンパス

開催時間
10:00～15:00
(予定)

3月2日(月)から5月15日(金)の期間は、桜鑑賞のため校内の一般開放を予定しています。(3月18日、4月3日は除く)

受験生向けのオープンキャンパスでは、学食体験や体験授業などの企画を予定しています。

どちらも予約不要ですので、お気軽にお越しください。

なお、最新の開催情報をホームページ等で確認の上、ご来校ください。 ※時期により咲いていない桜もございます。

●編集後記●

今年は暖冬傾向のため、桜の開花も例年になく早めになっています。卒業式、入学式、それぞれの時期に桜が楽しめます。(但し、最新の行事開催情報についてホームページ等で、ご確認ください。)

令和元年度、学報は年2回の発行となりました。今回は後期の活動報告を中心にお送りいたしました。